



特例認定校の指導方法の紹介(2)

実験動物2級技術者受験資格特例認定校における指導方法の紹介

◎ 花輪 俊宏

湘央生命科学技術専門学校
応用生物科学科

当学科の前身であるバイオ学科が当時の社団法人日本実験動物協会（現 公益社団法人日本実験動物協会）から専門学校初の特例認定校として認定を受けたのが1998年5月28日のことでしたが、それから25年の歳月が流れました。当学科学生が初めて受験した1998年度から今年度（2022年度）まで、延べ251名が受験して227名が合格しました（合格率90.4%）。その間、2008年度からはじまった成績優秀者表彰では、受験者がいなかった2020年度を除く2022年度までの14年間で33名が受賞、専門学校の部第1位も8回受賞しております。認定を受けてからの10年間は、2004年度と2006年度の2回、受験者全員が合格を果たしたものの、個々の年度の合格率を見ると初回の50%を最低に、安定して受験者全員が合格できる環境からはほど遠いものでした。しかし、成績優秀者表彰がはじまったのがきっかけとなったのか、2009年度から2019年度まで11年連続して受験者全員が合格を果たし、継続して受

験者全員の合格を実現できる環境がなんとか整いました。その後、2020年度は受験者がおらず、2021年度は再び受験者全員合格を果たしたものの、今年度（2022年度）は不合格者が出て、当学科の連続全員合格の記録が途絶えてしまいました。今後は、この建て直しも大きな課題です。

今回、標記のテーマで記事を書く機会をいただきましたが、当学科は特例認定校として特別な指導を実施してきた訳ではありません。ただ一つ言えることは、学生の不合格は指導側の責任という考えのもと、どうすれば学生が勉強しやすいか、どうすれば学生が合格できるかということを考え続けてきたということです。学科試験対策では、指定テキストの内容から問題集や模擬試験問題を作成したり、公表されている学科試験問題をテキストのページ順に並べ替えて勉強しやすくしたりしています。また、今年度の試験からは増補改訂された新しい教科書からの出題となりましたので、模擬試験の実施ではそれを踏まえ、特に新しく入ってきた内容の問題を独自に作成して、過去の学科試験問題の一部と入れ替えて模擬試験を実施しました。実技

試験対策では、実際の実験動物を使った実技練習を行うことは当然ですが、試験に関係する動物、器材や標本等はできるだけ実物を見られるような環境を整えています。近年は新型コロナウイルスの影響で、実技試験がペーパーでの実施となっていますが、そちらの対応も行っています。そして、これらの実験動物教育は、卒業生講師と一緒に創ってきました。実験動物技術者としての就職が増加したのも、この間、卒業生講師陣が中心となって同窓会主催で実験動物技術講習会を開催したり、卒業後に実験動物1級技術者資格認定試験を受験することを見据えて、実習内容を組み立てたりするなどの努力を繰り返してきてくれたからです。そして、そのような環境の中から実験動物指導員や準指導員が次々に生まれていることは喜ばしいことです。今後もこのよき伝統が続くように、学科としてもできる限りのことをしていきたいと思っています。

最後に、公益社団法人日本実験動物協会を中心とする実験動物業界の皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。